

オキナガイ *Laternula anatina* (Linnaeus)

【選定理由】

本種は、内湾から湾口部にかけての干潟から潮下帯の砂泥底にすむ。また外洋の潮下帯から水深 50 m 程度の砂泥底にも生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖(木村, 1996; 木村, 2000)、名古屋港沖(2016年10月調査; 木村, 未発表資料)で生貝が少数採集されているが、蒲郡市沖などの三河湾奥部では、死殻も稀にしか採集できず、近年生貝が確認されていない。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。



蒲郡市沖水深 5 m(ドレッジ), 1995年4月30日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 40 mm で、殻は長楕円形で膨らみはやや強い。殻は非常に薄く半透明。殻表には微小な顆粒状の突起が多数密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、県内内湾域では生息場所、個体数が減少し、三河湾奥では死殻も稀で生息が確認できない。渥美外海では現在でも底引き網漁船により生貝が採集されている。

【世界及び国内の分布】

日本、中国、東南アジア、インド洋。国内では房総半島以南九州まで分布する。フィリピン、オーストラリア等南方産の個体は日本産個体と比べて殻高が大きく、分類学的な検討が必要である。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟から潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。渥美外海の潮下帯から水深約 50 m までの砂泥底では、内湾域と比べて多くの個体が生息していると考えられる。

【保全上の留意点】

上述したように県内内湾の干潟から潮下帯の環境を保全する。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)